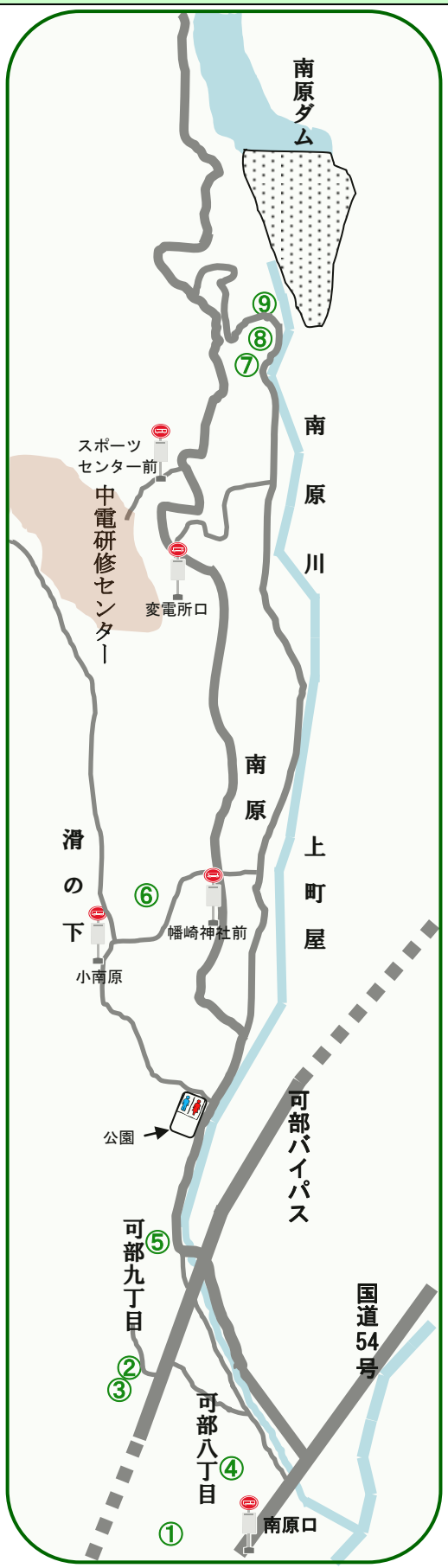
可部の散策 4

南原地区の名勝・旧跡めぐり
ハイキングや山歩きには自家用車が最適
南原口バス停から幡崎神社までは徒歩可能（約2km）

〈南原の地名のいわれ〉
可部山（可部冠山）の南方に広がった原っぱの村ということで、南原と称した。
〈三入の地名のいわれ〉
三つの谷の入り込んだところ、桐原すじ・町屋すじ・南原すじに由来する。
（南原誌－沿革から）



⑧山の神神社

祭神は大山祇命。山林が多く山の幸で生計を潤していた人たちのお宮。かつて石州街道が栄えていた頃には旅人の安全を祈願するお宮でもあった。祭りは 3 月 14 日を中心に行われており、山仕事の安全を祈願して行われている。

⑦荒神社（こうじんしゃ）

火難や水害からこの地域を守っているお宮。山の神神社と同じ日に祭礼が行われている。

⑤地蔵河原一里塚跡

石州街道を旅する人の目印であった。江戸時代、浜田藩主は参勤交代のときこの街道を通り、広島の草津から海路で江戸に向かった。

④西光寺（さいこうじ）

本尊は恵心僧都の作といわれ、宝永 3 年（1706 年）に京都で修復後、播州沖で時化に遭い沈没した。その後、漁師が海底に光る物を見つけ引き揚げたところ、箱入りの仏像であった。箱の書き付けから西光寺の本尊とわかったという。

①庚申神社（こうしんじんじゃ）

六手青面金剛（ろくしゅしょうめんこんごう）と「見ざる、聞かざる、言わざる」の三猿がある。金剛は法を守り諸魔を払う強い明王、また三猿は慎みの生活によって現世に利益をもたらす福の神として祭られている。

⑨目くぼ地蔵

岩に彫られている地蔵さん。200 年以上昔のものといわれ、可部地区有数の磨崖仏。
発電所の下の池の堰堤の向かって左側山中にある。
幅 2m・高さ 2m の自然石に高さが 80 ㎝の立像が浮き彫りしてある。地蔵さまには珍しく、胸の中央で合掌しておられる。

⑥幡崎神社（はたさきじんじゃ）

150 段の石段がお宮の名物。立派な梵鐘もあり、豊作に導いて下さる神様。三方から登れる宮で、地域に愛されている社である。

②若宮神社

豊作と商売繁盛をつかさどる神様。また、山の木や農作物を守って下さる神様と言われている。

③九品寺の地蔵堂（くほんじ）

広島市指定重要有形文化財「木造地蔵菩薩立像」がある。この像は、板張寄木造という珍しい技法を用いており、江戸時代初期のものと思われる。

九品寺の地蔵堂（左）と若宮神社

この地に伝わる むかし話

綾が谷

むかし　むかし、あるお坊さんが諸国を巡礼していた。ある年安芸の国へおいでになり、そこの山に登ろうとされた。あいにく日はとっぷりと暮れ、道もみえなくなってしまった。坊さんは、山あいのあるあばら家に一夜の宿を求めた。

その家の婆さんは、忙しそうに木綿を織っていたが、「これも何かの因縁じゃ。せまくてきたないところじゃがお泊りなしゃんせ」といって快く招き入れ、青物ばかりではあったが、ごちそうしてもてなした。

翌朝、坊さんは、厚く礼を云って福王寺の山へ登っていった。そのあと、婆さんが昨日の続きの機を織ろうとして納屋へ行ってみると、アラ不思議、昨日の織りかけの木綿が綾（模様を浮かび上がらせた絹の織物）に変わっている。婆さんは、はじめて、昨日泊めた坊さんは並みの坊さんではない。弘法大師だということがわかり、合掌して拝んだ。

それ以来人々は、この家を「綾織屋敷」というようになったといわれる。

江戸時代の記録に、「当村は古くは、綾を織っていたようで、綾織屋敷があり、綾が党という地名もある。このためこの地を綾が谷という名でよび始めた」と記されている。

「可部の昔ばなし（第一集）」から抜粋

※　弘法大師＝空海は奈良時代末期から平安時代初期の僧で真言宗を布教。福王寺も開基したと伝えられる。

老夫婦の奇談

三入一丁目の旧出雲街道沿いに、熊谷氏の菩提所観音寺跡がある。今も立派な石垣が残るが、その石垣について次のような伝説が残されている。

熊谷氏の発願によって、菩提所の建立が決まったときのこと、村に住んでいた老夫婦が異なことを申し出た。

「寺屋敷の石積みは私どもにお任せを願いとう存じます」と。熊谷氏は「まことに奇特な志じゃが、老い先短いお前たちにそういう力はない、引き下がれ」と断った。ところが老夫婦は、深い信仰の生活を営んでおり、地区内での評判の働き者、せっかく申し出たのだから、と取り次ぐ者もあって「ではとに角取り組んでみよ。但し手間暇かけて出来んときはどうする」「その時は、いかなる仕置きも厭いませぬ」。

許しが下りたのでその日から老夫婦は、石垣を積みにかかった。夜になると老婆はあちこちの山や川へ石を取りに行った。着物の袂にいっぱい石を入れて帰った。その石を老爺が丁寧に積み上げて出来上がったという。

文字どおり一念発起、信心の結果である。

参考文献「可部町　はなし百話」

健脚者コース

南原峡県立自然公園内のおすすめ景勝地

広島県が設置している案内図。冠山や堂床山の登山ルートも書いてある。

俳人河東碧梧桐の句碑

昭和8年12月に南原峡を訪ねた河東碧梧桐が「南原峡頭に積む雪の岳は一揺り吹きておろす」と詠んだ。伝統的技法にとらわれず個人の官能感覚で自然を眺めようとした句風は、一時、俳壇の主流となった。昭和38年12月建立。

加賀津の滝

第一明神橋を渡り約15分。南原峡を代表する名滝で、落差は30メートル。

平成24年(2012年)3月作成　　発行：可部公民館利用グループ「可部ガイドクラブ」・可部公民館